

第3章 まちづくりディスカッションの検証と評価

基本計画改定に向けたまちづくりディスカッションは、昨年、三鷹市と三鷹青年会議所が共催し、自治基本条例施行後初となるパートナーシップ協定を締結し実施したまちづくりディスカッション2006の有効性が実証されたことから、第3次基本計画第2次改定に際しての市民参加にこの手法を取り入れることになったものである。

ここでは、参加者へのアンケートやまちづくりディスカッションの実践を踏まえ、実行委員会で検証と評価を行った結果について述べる。検証と評価にあたっては、評価できる点、改善すべき点などについて具体的に検討し、課題を抽出するとともに、課題解決の方向性を示すこととした。

まちづくりディスカッションの有効性

1 質の高い提案

前回と同様、参加者は質の高い話し合いにより、話し合いの結果である提案の内容が、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題とが区別されており、それぞれの実現可能性が高いものとなっている。このことから三鷹市の基本計画改定案に反映すべき内容を備えている。

2 参加者の高い満足度と参加意識の高まり

アンケートによると参加者は、今まで市民会議に参加したことがなかった人が98%にもかかわらず、これから参加したいと思うもののうち、62%の人は行政主催の市民参加事業と回答している。

また、市民が市政を知る学習効果としての有効性が認められる。アンケートによると参加者は、第3次三鷹市基本計画について29%が全く知らなかったと回答しているが、参加後のアンケートではまちづくり全体への関心が高まったとの回答が87%にのぼっている。

あらたなプレーヤーとして、まちづくりに主体的に参加する市民が拡大する市民参加手法であったと言える。

3 参加を承諾した市民の多さ

無作為抽出した18歳以上の市民1,000名に参加依頼状を送り、73名にのぼる応募者から公開抽選を行った。公募型による、時間的制約の少ないテーマに対しての当事者であるか、もしくは高い関心を持つ市民という特定条件を満たした参加者とは決定的に違い、参加を承諾した市民という一種の選別が行われてはいるが、さまざまな構成がその地域の特性と同様の傾向を示したことから当該地域の代表者と言える。また、今後継続して取り組むに際して無視し得ない高さを見せた。

まちづくりディスカッションの手法の特徴

個別課題に対して意見を求め、協働による運営を旨とし、手法の検証を行うことをも目的としていた「みたかまちづくりディスカッション2006」に対して、同じ手法を用いながらも、「基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション」では総合計画への意見を求める手段であり、行政主導の事業としながら客観的な公平性・中立性を担保しなければならないという変化を求められることになった。

そのためには、今回も実行委員会形式を採り、公募市民も含めた12人体制で設置し、準備段階からの市民参加を図った。

また、前回の経験を資産として活かしコンパクトな運営を実現するために、前回は30回を要した打ち合わせを5回で準備を行ったため、経済効率が図られた。

また、実施の旨から、基本計画改定作業の中で、他の意見聴取方法と比べて、異なる意見も見られるのではないかと期待される。そこにまちづくりディスカッションの意義を見出せるとすれば、今後の施策づくりにおいて参考になると考えられる。

「みたかまちづくりディスカッション2006」との相違点

パートナーシップ協定の締結に基づく協働の取り組みであった「みたかまちづくりディスカッション2006」から、市が実施主体となった2007の取り組みへの変更点は、「市の総合計画の策定」にむけた「まちづくりディスカッション」の位置づけであったからであるが、運営側となった実行委員会においても実証実験としてとらえ、「まだ2回目なのだからいろいろなパターンを試すべき」と前向きに手法の可能性を追求した。また、市が実施主体者となったため、市民の意見が計画改定案に反映され、実施されることが期待できる。

運営面ではかなりコンパクトにし、5回の実行委員会(前は30回超)で実施につなげた。

また、誘導要素となりうる補助係の数が少なかったが、主体的な話し合いが行われ、支障なかった。

検証と評価 (プログラム編)

テーマ設定、プログラム設計、時間配分、話し合いの体制、情報提供、投票に関しては、参加者の話し合いのレベルが高いこともあり、また、開催2回目という経験も手伝って、短い準備期間から考えると良好な結果を得たといえる。しかし、話し合いのテーマの設定方法について、改善すべき課題が残った。

1 テーマ設定

基本計画改定は多岐にわたり、2日間での実施が決まっていたことから、どのような組み立てが適切なのか実行委員会において議論した。

市民アンケートの結果を参考に市民の関心度の高い分野から選定することにした為、関心度が高いテーマが選ばれた。また1日目は広く市民の意見を聞くために設定した、最初のテーマ「三鷹の魅力」は参加者の共有項目が多々あり以降の話し合いをスムーズにさせた。

また、2日目においては限られた時間で多くの分野の意見を抽出するねらいと、また昨年度、不参加の方のアンケート結果(テーマに興味があれば参加する:34%)に配慮し、テーマを複数設定したことが新しいかたちとなった。これは、参加者にとって関心の高いテーマであると同時に、行政当局が日頃感じている緊急のテーマであった。結果的に、利害無く暮らしに密着した課題であったため、参加者が事例を元に活発に意見を出せた。

一方で準備時間の少なさから主催者である行政が聞きたいテーマと実行委員会とでテーマ選定で意見が食い違を見せた場面もあった。

早い時期から、行政の感じる緊急な課題はどの点にあるのかを明示したり、あるいは行政主導だけでなく、事前アンケートで参加者の希望も取り入れるなど、テーマ選定における実行委員会の合意形成が今後の課題となった。

評価できる点	・参加者にとって関心の高いテーマであった点
改善が必要な点	・短い準備期間でのテーマ選定の合意形成の方法に課題があった点 ・テーマを公募する等の時期に来ているのではないか

2 プログラム設計

プログラム設計には去年の経験が活き、建ぺい率をしっかりと守ったプログラムがシンプルに組むことができた。また、身近な問題で関心度も高いテーマだったため、参加者も話しやすかった様子だった。

初日は理解しやすく話し合いがしやすいテーマというコンセプトで設計し、また2日目は選択肢を設け、「災害に強いまち」と「高齢者にも暮らしやすいまち」のどちらかを参加承諾時に選択してもらい、2日目1コマ目は「今の三鷹の課題」を話し合い2コマ目に「その課題を解決するためのアイデア」を求める形式とした。2回の話し合いの一連の流れを阻害することを嫌い、情報提供を2回の話し合い

の最初にまとめて行ったことが結果的にスムーズな話し合いになった要因と考えられる。

2日目は2つの別テーマのグループに分けたことで限られた時間で多くの意見を抽出することが実現した。運営上は会場設定が複雑になったがお客様の移動経路などを予行演習していたので本番当日は問題なく運営を行うことができた。

評価できる点	・話し合いをしやすいプログラム設計を工夫した点
改善が必要な点	_____

3 時間配分

前回の参加者アンケートを参考にし、時間的には前回より短い設定で組むこととした。

情報提供の時間を1日1回にまとめたこと。昨年は話し合いの前にそれぞれ情報提供を行ったが、今年は日にちごとに情報提供を行った。このため、事業全体の時間の短縮することができた。また、第2回と第3回の話し合いをスピーディーに進めることができたため、昨年と異なりお客様の疲労感が少ないように感じられた。

ガイダンスは極力コンパクトにまとめ、長すぎない情報提供、短時間で要領よく説明された内容であった。

また、慣れてくると雑談が増える傾向がうかがえたのでその対処法を検討する必要がある。

評価できる点	・全体的にディスカッションの配分は良好であった点
改善が必要な点	・雑談が増えた場合の対応方法の検討

4 話し合い体制

参加者は49人(1日目は47人)だったため、今回も1グループにつき5～6人で9グループとなった。また、いわゆる「声の大きい人」だけが発言するのではなく、均等に発言ができるようにするため、話し合いごとにグループのメンバーを入れ替えた。

参加者主体の話し合いを進めるため、また前回より少ない実行スタッフにするために今回もファシリテーター(人々の話し合いの場を仕切り、事前に合意された会議のルールに沿って、円滑に成果へたどり着くよう、会議を運営する役割を果たす人)は置かず、5グループに対して3名の「補助係」を設置し、話し合いの進め方や時間配分などの説明を行うこととした。各グループにおいて「まとめ係」「進行係」「ちょっと来てカード係」の役割を担うことは前回と同様に設定した。

「補助係」が少ないので自分たちで自立してやろうという意識がうまれた様子で、話し合いの進行は順調だった。今後、同様の市民会議を開催する際には特に2日目は補助係の人員を削減しても問題ないことが証明することできた。

また、小グループ体制に加え各グループに於ける係の役割り分担が良く機能し、初対面にも拘らず最初から活発な話し合い、短時間内でのスムーズなまとめが出来た。

手話通訳を手配し、対策を講じたが話し合いがなかなか難しく、何らかの配慮が必要だった。

評価できる点	・参加者の話し合いのレベルが高く、スムーズに進行した点 ・話し合いの方法の説明について、マニュアルを作成し、グループ間の統一を図った点 ・補助係を減らした点
改善が必要な点	・障がいのある方が話し合いに加わりやすい工夫について、準備が不足した点

5 情報提供

情報提供者は、参加者の現状や課題の認知度に差があるため、公平・中立な立場の学識経験者などにより行う必要がある。話し合いを組み立てる過程で、情報提供者の属性バランスを実行委員会で協議し決定した結果、バランスよくなる確かな情報提供ができ、また提供項目も多角的になるよう配慮された。昨年は参加者へのアンケートによると3人に1人がもう少し詳しく情報を聞きたかったと回答していたが、今回のアンケートの自由回答欄をみると市政・三鷹への理解が深まったと好意的な意見が多くあった。

具体的施策の説明や、経験談ということもあり、異なる意見の紹介ということではなかったが、これはこれで良かった。

評価できる点	・情報提供は、実行委員会でバランスを決定したため、公平に行われた点 ・話し合いの参考になる事例が多かった点
改善が必要な点	・情報提供についての参加者アンケートを実施し、今後の改善につなげる工夫が必要。

6 2日目のグルーピング

前回の経験が生かされたため、概ね問題なくグルーピングされた。1日目の経験で意見交換が活発になり、また参加者同士、違和感なくグループに馴染んでいた。

ただし、参加者の属性のばらつきから、「高齢者にも暮らしやすいまち」の方では、女性が多数を占めていたため、男性が1人だけというグループがあった。極端なグルーピングとなったが、他のグループも男性2人というグループもできてしまった。

評価できる点	・スムーズな運営ができた点
改善が必要な点	・参加人数を増やし、属性にばらつきを持たせない工夫。

7 話し合いの内容と投票

昨年同様、実行委員会では、各グループの話し合いの結果について、かなり抽象的なものになるのではないかと考えて各グループの話し合いの結果は、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題とが区別されており、それぞれ実現可能性が高いものばかりであった。また、話し合いの結果だけではなく、話し合いの過程においても、参加者の力量が高く、自然に役割分担ができ、素晴らしい話し合いとなった。したがって、投票の結果についても、十分説得力を持つことは、自然の流れであった。

投票の方法については、話し合いにより各グループ3つ以内に意見をまとめ、それに対して参加者全員でシール(1回の投票につき8枚)を使用し、賛同する意見に投票することで、参加者の考えの傾向をつかむ工夫を行った。「残したい意見」は投票対象からはずすこととした。

参加者全員の前でグループごとに発表し、投票を行った。投票対象となる「まとめ」については同じような内容でも集約せずにそのまま投票し、結果を分析することとなった。

評価できる点	・参加者の力量が高く、話し合いの内容が豊かで、投票の結果の実現可能性が高い点 ・第1回の話し合いにおいて、この手法に慣れるという意味も兼ねて投票を実施したことから、以降もスムーズに行うことができた点
改善が必要な点	_____

検証と評価（運営編）

運営組織、スタッフ、協力者、スケジュール、費用についても、良好な結果であった。まちづくりディスカッションは、公募市民を含む多様なメンバー構成により公平・中立な立場で実施することができた。一方で今回も一部実行委員に負担が集中したことは今後改善すべき課題である。

1 実行委員会

実行委員会は公募市民を含む12人体制で設置し、プログラム設計から当日の運営に至るまで行い、また議事録を市ホームページ上で公開するなど客観的な公平性、中立性を確保しながら運営することができた。前年の踏襲という中で、公募市民の新しい意見が、今までが当たり前とってしまう前回経験者にとってはいい指摘内容であり、構成員の拡大は今後も重要と考えられる。実行委員会の役割は、

ディスカッションの実施に関すること。

ディスカッションの成果及びその手法の効果の検証及び評価に関すること。

ディスカッションの実施状況の公開に関すること。

ディスカッションの結果を市民提案として三鷹市に提出すること。

以上の事務を所掌することである。前回の反省から開催まで5回というスリムな実行委員会運営で実施ができたことは評価できるが委員会内のコンセンサス作りには時間的な問題も有った。また、実行委員会の開催時間を9:00～17:00にした方が委員の負担が軽いのではないか、との意見もあった。

評価できる点	・実行委員会設置要綱により、役割・責務を明確にした点 ・公募枠を設けた点
改善が必要な点	・実行委員会の役割を明確にする点

2 スタッフ・協力者

実行委員会がさまざまな立場の委員で構成され、対等で活発な議論をもとに決定・承認を行っていったことは、公平性・中立性の見地から評価できることと思われる。

また実行委員会を自由に傍聴できることを決めた。

事前準備は2か月前から、実行委員による約5回の打ち合わせ、実行委員によって、開催までに参加者の立場で考え運営の準備が行われた。実行委員会が互いの知恵を出し合い、話し合いの積み重ねを行うために、メーリングリストによる通知や情報交換は、情報共有や会議時間の短縮に効果があった。

まちづくりディスカッション当日は、実行委員、運営委員その他のスタッフは、参加者に気持ちよく過ごしてもらうため、「おもてなしの心」で運営するよう努めた。

評価できる点	・実行委員会が市民の立場と行政の立場とを共有できた点 ・スタッフ、協力者に幅広い参加を得られた点
改善が必要な点	・コンパクトな運営に伴う、コンセンサス不足が起きた点 ・中心的スタッフへの報酬の検討

3 スケジュール

今回のまちづくりディスカッションの事前準備は2か月前から開始した。チラシの作成および配布、無作為抽出や郵送する印刷物の作成から発送までに1か月という短い時間で行う必要に迫られた。実行委員会内部の意見調整する時間の確保が不足した。また、新しい担い手としての公募市民を今後も実行委員会構成に採用することなどを考慮すると最低でも3か月の準備期間は必要と考えられる。

評価できる点	・コンパクトで経済効率が向上した点
改善が必要な点	・委員会内の意見調整時間が不足した点 ・日程の調整にある程度の余裕を確保することが必要

4 人員配置・役割分担

これまでの市民参加では、そのほとんどが無償であったが、前回のまちづくりディスカッションから、参加者に2日間で6,000円の謝礼を支払った。(謝礼金の総額約30万円)

そのほか、1,000人に参加依頼書等を送るための郵送料約20万円、コピー料、掲示用模造紙等消耗品10万円、参加者の昼食代等賄費10万円など合わせて約100万円を費やした。

今回のまちづくりディスカッションでは、スタッフは無報酬で役割を担っており、今回の経費も最低金額であったと思われる。

また、補助係については、コンパクトな人員で実施したが、かえって参加市民の議論が主体的に行われた。

評価できる点	・最低の費用で実施することができた点 ・全体を見ながら各人が補完していた点 ・補助係を減らした点
改善が必要な点	・当日手伝ってくれるスタッフの確保

5 会場設営

前回に引き続き市民協働センターを会場として使用した。センターの職員・スタッフの協力を得て、事前に本番を想定した模擬設営を行い、当日の人の動線や備品配置における注意点を洗い出せたことは大きなメリットと言える。

しかし、2日目の2つの集団に分かれての情報提供から話し合いの流れの中で、混乱はなかったものの、キャパシティの限界が感じられた。今後、参加人数やテーマ設定によっては会場を変える議論も必要となると思われる。

評価できる点	・市の施設なので施設使用料を要さず実施することができた点 ・会場施設の職員が昨年のまちづくりディスカッションにかかわっていたので、その経験や反省点が活かされた点
改善が必要な点	・60人以上の規模での開催を想定するなら他の会場を検討する必要がある

検証と評価（参加者編）

今回の新しい試みの特徴は、「無作為抽出」による市民参加と「参加者への謝礼」の2点であるが、現実的には、さらに「当日人が集まるかどうか」という課題が加わる。したがって、この3点を中心に検証と評価を行う。なお、後述するように参加者アンケートから、この新しい市民参加の手法は、今回も参加者に概ね好意的に評価されたといえる。

1 無作為抽出方式の人選

従前の市民参加は公募型が主流であった。この場合、参加の意欲があり、時間的な条件を備えた市民参加に限られるという課題があった。また参加する場や機会があれば意見を表明したいという市民の声を聞くことができなかった。この無作為抽出では潜在的意欲を持った市民の参加が期待できる。アンケートによると「これまで、行政の呼びかけによる市民会議に参加したことがありますか？」

という質問に対して 98%の参加者が『いいえ』と答えていた。また、参加前のアンケートでは「今回、参加をお決めいただいた理由はなんですか？」によると無作為抽出による参加手法だったからと回答した参加者が 53%いた。公募による市民参加の場合、参加の意欲があり時間に余裕のある市民やテーマに興味のある市民の参加に限定されてしまうが、無作為抽出方式による市民参加の場合は属性からみても男女比率、年齢、職業などのバランスがとれており、多様な市民が参加することが実証されたとともに当該地域の代表者と言える構成となった。日常生活でのかかわりの程度とは違うアプローチでのテーマであったため、2006 に比べて若干減少を見せたものの、無作為抽出により参加依頼状を 1,000 通送った結果、75 名から参加承諾があった(公開抽選対象は 73 名)。参加可能枠が 60 名の場合は妥当な呼びかけ数であったといえる。
(実際の参加者、公開抽選による参加者、三鷹市民の性別、年齢、居住地区の構成比率については、77～79ページ参照)

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出による参加者決定方法について、参加者からの支持を得られた点 ・参加者の年齢構成や住所等のバランスが良好であった点 ・募集人数に対する参加承諾者数が多い点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加依頼数に対する参加承諾者をさらに増やす取り組みを行う必要がある

2 参加者への謝礼

参加者への謝礼については従前の市民参加では無償参加が原則であったこととの均衡を考慮しながら、まちづくりディスカッション 2006 と同額の 6,000 円(2 日間参加者のみ)と記念品としてジブリ美術館ペア招待券を用意した。実行委員会では謝礼があることにより参加市民が責任感を持って討議を行ってもらえるという理由からあったほうが良いと判断された。また金額については、裁判員制度では裁判員候補者の方は1日あたり8,000円以内の日当が支払われることになっていることを考えると、同じように行政からの依頼の謝礼として謝礼 6,000 円にジブリ美術館(三鷹市立アニメーション美術館)のチケット 2 枚(2,000 円相当)は妥当性があると考えられた。参加者アンケートからは謝礼は不要との意見もあったが、若年齢層などは金額で参加を判断する傾向があるため、テーマによってはバランスを考えて謝礼金を増額するなどの検討が必要である。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・有償による市民参加というかたちを提示できた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・ジブリ美術館のチケットが出せない場合の代替案の検討

3 参加者人数

前回と違い、基本計画改定という日常生活でのかかわりの程度とは違うアプローチでのテーマであった。それでも前年に対して若干減少は見せたものの今後継続して取り組むことが充分可能であることが改めて実証された。

75人から参加承諾があった。この中で2日間通して参加可能との返答であった73人を対象として公開抽選で60名にご参加をお願いしたが、当日の不参加が結構あった。それでも当初予定の50人近くを確保できた。

市民のまちづくりディスカッションに対する関心が高く、テーマや日程に工夫をすれば、さらに参加者が増加することも期待できる。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のまちづくりディスカッションに対する関心が高い点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・欠員に対する対応策が無い点

4 参加者の反応

総じて好意的に受け止められているといえる。参加者に対するアンケートによると、「今後もまちづくりディスカッションを開催したほうがいいと思いますか?」という質問に対して 96%の参加者が『はい』と答えている。また、「参加していかがでしたか?」という質問に対して 88%の参加者が『楽しかった』と回答している。

参加依頼書を受け取ったときに、「進んで参加しよう」と思った参加者は 34.0%であったが、二日目の終了時に行った「手あげアンケート」(74 ページ参照)では、「参加して楽しかった」という回答が 87.8%、「参加後アンケート」で再度参加依頼が来た場合「日程が合えば参加する」という回答が 85.1%であったことから、まちづくりディスカッションに対する参加者の満足度が高いといえる。

また、参加者アンケートにおいて、「市の取り組みが分かり、市政への関心が高まった」「色々な地域・世代の人と話ができてよかった」(69~71 ページ参照)などの意見が多数寄せられ、自分たちのまちは自分たちがつくるという参加意識が高まったといえる。

評価できる点	・参加者の高い満足度が得られた点 ・自分たちのまちは自分たちがつくるという参加意識が高まった点
改善が必要な点	・事業終了後の参加者満足度をどうつなげるかという点 ・趣旨が理解できなかった参加者がいた点

検証と評価 (広報編)

広報活動については、概ね評価できると思われる。広報は、ホームページの開設、チラシの配布、メディアへの対応の3つの手法で行い、その成果は以下のとおりである。

メディアの反応	・新聞4紙5回掲載 ・市報『広報みたか』4回(各回約90,000部) ・市民協働センターニュースレター4回(各回約2,000部)
両日の来場者(累計)	・見学者34人(他自治体6人、市議会議員2人、その他26人) ・報道2社

1 ホームページ

昨年に引き続きウェブ上での情報発信は重要ととらえ、実行委員会では積極的に広報していくべきと考えた。基本的には三鷹市のホームページ内に記事を掲載することとなったが、毎日更新される新着記事に押し出されてトップページに掲載される時間が短かったという課題が残った。

まちづくりディスカッション2006で開設したブログ形式の専用ホームページについては、実行委員会における議事の公開と別に適宜更新していくこととした。

評価できる点	・参加者がホームページを見て来場していた点 ・三鷹市のホームページで、まちづくりディスカッションの説明や平成19年度の取り組み経過、実行委員会会議録を公開するなど充実した内容であったこと。
改善が必要な点	・まちづくりディスカッションをインターネットで検索しても、三鷹市のホームページは検索結果の上位にこないため、情報にたどりつくことが困難であったこと。

2 チラシ

チラシは市役所の庁舎内印刷機で作成し、参加依頼書に同封するほか、市民協働センターを含む市内の公共施設に設置を依頼した。前回同様、チラシはカラーで訴求力を出したいとの意見もあり、カラーコピーを使用した。しかし、デザイン決定から配布・活用までの期間が短かったため、作成した総数は2,000枚を下回る程度であった。チラシを媒体とした広報活動は低調であったと言える。

また、A3に拡大コピーしたものをポスターとして、公開抽選や当日の会場入り口への掲示などに活用した。

今後の展開として、ポスター・チラシのデザインコンテストを開催して作成する提案も出された。また、課題として「難しいことをいかに簡単に言うか・・・それ自体が難しいことだが・・・」という意見も出された。

評価できる点	・行政で作成したため、安価でできた点
改善が必要な点	・実行委員会の内部でも見る機会がない委員が生じるなど短期間の活用であった点 ・抽出されなかった方々へのPRが考慮されなかった点

3 メディア対応

市の企画部秘書広報課と連携し、要所要所でプレスリリースを行った。リリース先は13か所で、そのうち記事や放映などの反応があったのは、朝日新聞、読売新聞、産経新聞、都政新報の4紙であった。このほか、市報や市民協働センターのニュースレターにも掲載している。

また、当日は広報関係の業界紙である社団法人日本広報協会から記者が2日間を通して取材に来ており、その後、平成20年11月10日に発行された月刊「広報」11月号に特集記事が掲載された。

評価できる点	・基本的にオープンとし、取材をOKにした点 ・参加依頼書に取材があることを明記し、参加者に周知していた点
改善が必要な点	・三鷹市側のメディア対応と専用ホームページの連携が弱かった点 ・記者に理解してもらう努力

検証と評価（開催後の取り組み編）

ここでは、基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション開催後の取り組みとして、中間報告会、報告書の作成、事後のフォローについて述べる。なお、中間報告会や報告書の作成については、概ね評価できる内容となった。事後のフォローについては、実行委員会の役割が報告書の提出にあることから、市民に対する情報提供等にとどまっている。

1 中間報告会

まちづくりディスカッション開催から3週間後の11月15日（木）に市民提案として提出する報告書の方向性を参加者に確認してもらう機会として中間報告会を開催した（ディスカッションの参加者49人のうち中間報告会の参加者は10人）。中間報告会では、話し合いの結果を分析してまとめたものを中間報告書として参加者に提示した。また、基本計画への反映のための対応表の原案を別綴りの資料として添付した。

中間報告会の後で懇親会を開催した。そこでは、参加者同士の交流を更に深め、また参加者とスタッフとの交流を持つことができ、楽しいひと時を過ごすとともに、まちづくりに関する関心の高さや思いを直接聞くことができた。あらためて参加者と直接交流する機会を持つことがいかに大切であるかを実感した。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果を分析し、その方向性を中間報告会で参加者に確認したことで、分析の客観性が高まった点 ・中間報告会後の懇親会、参加者と直接交流が持てたことで、まちづくりに関する関心の高さや思いを直接聞くことができた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にプログラムに掲載しておくべき ・参加者を増やす工夫が必要 ・参加者募集時に中間報告会のスケジュールを明示すべき ・週日、週末のどちらが出席しやすいか、あらかじめアンケートをとるべき ・事前に予定するべき

2 報告書

基本計画改定に向けたまちづくりディスカッションの目的は、そこで行われた話し合いの結果を三鷹市基本計画改定素案に盛り込むとともに、まちづくりディスカッションという新たな市民参加の効果と手法について検証・評価することにあるため、報告書についても「話し合いの結果」と「手法の効果の検証・評価」を含めて編集することとした。

「効果と手法の検証・評価」は、実行委員が、それぞれ所管していた部分を中心にまとめることとした。なお、中間報告会において、

参加者アンケートの内容等について、手法の効果の検証で活かしてもらいたい、
 まとめの意見には入っていないが、ユニークな意見等で具体的に活かしていけるものもある
 のではないが、

という意見にしたがって、報告書を通してアンケート等の資料を使って客観的に分析するとともに、資料を充実させることとした。

そして、広く公開することで関心の高まった参加者の参加意欲を消沈させない工夫が必要である強く意識した。

評価できる点	・アンケート等の資料を使って客観的な分析に努めた点
改善が必要な点	・わかりやすさ

2 事後のフォロー

中間報告会においても質問があったが、参加者は、本報告書を提出した後の三鷹市の対応について、当然大きな関心を持っている。今回は実行委員会の使命が報告書の提出にある(実行委員会は、2008年3月末日をもって解散することから、実行委員会が事後のフォロー(見守り)をする組織になることはできない。従って、参加者やこうした取り組みに関心を持って見ている市民に対して、改善された点や変化した点が伝わるようにする仕組みもしくは組織が必要である。この点については改善されたことが市民に体感できるような実体を持つことが望ましい。

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者にお礼状を出し今後の意向を確認した点 ・今後の類似事業案内への個人情報収集の同意を取りつけた点
改善が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に対するフォローの仕組み・組織を構築できていない点 ・中間報告会の不参加者に対する配慮 ・今後まちづくりへ参加意欲のある方へのフォロー体制 ・提案等の市政への反映や具体的な施策実施状況の開示